

もものせん孔細菌病に注意しましょう

(平成26年6月4日)

今年は例年より早い時期から、せん孔細菌病の発生が見られています。今後、梅雨入りすれば、長雨や強い風により、発生が増加する可能性があります。

ほ場をよく見回り、発生が認められる園では防除を行いましょう。

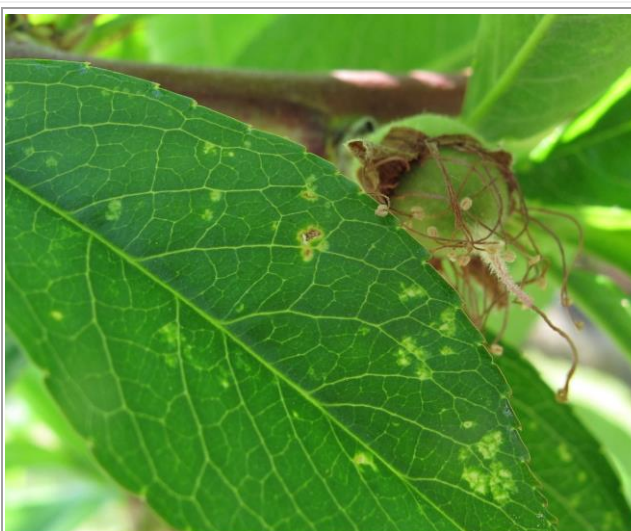
○発生状況

表1 せん孔細菌病の発生状況

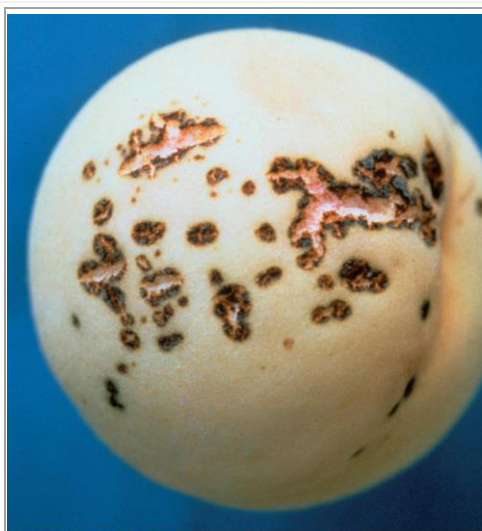
	4月後半	5月前半	5月後半
河内長野市	20.0%(0.7%)	34.0%(6.8%)	14.0%(9.1%)

数値は発病葉率、()内は平成10～25年の平均値

※岸和田市でも発生が見られるとの情報がある。



▲5月上旬の発生状況



▲もも果実の被害

○防除対策

- (1) これからの降雨は、果実に発病する危険性を高めるため、降雨前の予防散布が重要である。
- (2) 同一薬剤の連用は耐性菌の発現を助長する恐れがあるため、異なる成分のローテーション散布を行う。
- (3) 薬剤によっては、収穫の60日前までしか使用できないものもある。薬剤散布に当たっては、収穫前日数や使用回数を十分確認する。
- (4) 樹高の高い樹に散布する場合は、周囲に薬液が飛散しやすいので、特に注意する。

薬剤名(成分名)	希釈倍数	使用時期	使用回数
マイコシールド (オキシテトラサイクリン)	1,500～3,000 倍	収穫 21 日前まで	5 回以内
スターナ水和剤 (オキシリニック酸)	1,000 倍	収穫 7 日前まで	3 回以内
バリダシン液剤5 (バリダマイシン)	500 倍	収穫 7 日前まで	4 回以内
チオノックフロアブル (チウラム)	500 倍	収穫 7 日前まで	5 回以内

○防除上の注意事項

- (1) 樹勢の衰弱、強風及び暴風は発病を助長する。
- (2) 品種によって発病に差がある。白鳳、砂子早生に多く、清水白桃は少ない。
- (3) すももにも発病する。

◎防除薬剤については、

- Web 版大阪府農作物病害虫防除指針
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>)
- 農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム
(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)
で確認してください。